

『\風景』で体験する居場所がはっきりしないフラフラした感覚

水野 勝仁

『\風景=風景』を眺める

新津保建秀の写真集『\風景』を眺めた。フラフラする感じがした。1ページ目のグーグルマップのスクリーンショットによって意識がネットへと飛ばされ、「これ、写真集だよな」と確認しつつ、ページをめくると、先のマップで示された地点の風景だろうと思われる写真がある。少しホッとすると、またグーグルマップのスクリーンショットが置かれ、「おやっ」と思いつつも、そのあとは風景写真が続く。「これは写真集だ」と安心したところに、風景の画像を映し出していると思われるウィンドウがいくつか重ねられた「6月9日のデスクトップ」のスクリーンショットが「6月10日のデスクトップ」の上で開かれた状態で写真集の1ページとして配置されている。

そのあとも風景の写真とスクリーンショットが入り交じって配置されながら写真集は進んでいき、最後にこう書かれている。

バックスラッシュ \AとはAの持つ本来の意味を無効化するという意味である。

したがって \風景とは、風景の持つ本来の意味を無効化する¹。

写真集『\風景』を眺めていると、ページをめくると意識がネットに行ったり、写真で撮られている現実に行ったり、デスクトップ上のウィンドウに行ったりする。意識がフラフラする。このフラフラした感覚が、最後にある「バックスラッシュ」の説明ですっきりする。「すっきりする」と言っても、写真を見ているときの意識が

ネットに行ったり、現実に行ったりする感じのすべてが腑に落ちるというわけではない。けれど、「ああ、そういうことか」となる。そして、「写真2.0」という特集を組んだ美術手帖に掲載された『\風景』再構成版に、新津保と親交が深い複雑系科学者：池上高志が書く「安定した解の存在しない関係式『 $a=a$ 』』という一文によって、意識がさらに落ち着く感じがある²。「デスクトップも風景なのか？ そうだとすると、今まで「風景」と言われていたものはどうなるのか？」、このような問いを孕んだ現実とネット、写真と画像データといった様々なあいだをフラフラする感覚が『\風景』として無効化されて、その上で写真集が見せるすべてのものが改めて「風景」となるという感じである。

しかし、『\』の意味や『\風景=風景』という式によって意識を落ち着けてしまっていないのだろうか。この写真集の魅力はそういった説明以前に体験する「フラフラした感覚」にあるのではないだろうか。そこでこの居場所がはっきりしない感覚を探るために、新津保建秀の「スクリーンショットで撮る」という行為と写真集のデザインを担当した田中良治が強く意識する「時間軸」という言葉から、『\風景』を考えてみたい。

『\風景』をスクリーンショットで撮る

新津保はインタビューで「ネットワーク内の膨大な情報は、第二の自然環境といえるのではないのでしょうか。写真は見えるものしか撮ることができないけど、写真が持つ『フレーム』の意味を拡張することで現れる風景が



あるんです」と述べている³。この発言から私は、新津保が「第二の自然環境」を撮影するために、コンピュータのディスプレイに映し出される「デスクトップ」と言う「仮想の机」を利用して、写真の「フレーム」を「仮想」へと拡張したのではないかと考えた。なぜなら、デスクトップという「仮想の机」は「\机」でありながら、今では既にもうひとつの「机」として機能しており、誰もがそれを受け入れているからである。そして、デスクトップは「\机=机」であり、そしてその上に展開するウィンドウ=窓も「\窓=窓」として受け入れられている。コンピュータの画面では「\a=a」が成立し、しかも一般化しており、それに「仮想」という名称まで与えられているのである。

「\机=机 | \窓=窓」が構成する「仮想の風景」は、フォルダのアイコンをダブルクリックし、さらにファイルをダブルクリックしていくという行為、もしくは⌘Aでフォルダ内のファイルを全選択し、⌘Oでそれらを一斉に開いた結果として表示される。これらの行為の連なりの結果としてディスプレイに映し出されている画像の集積は「仮想の風景」であると同時に、そこにはウィンドウとその上に記されたデータ容量、ファイル名、拡張子 jpeg/ping/raw などといった多様な情報が含まれており、これまでの風景を無効化する「\風景」が現れているともいえる。「風景」を見ているのか、「デスクトップ」を見ているのか、それとも風景を縁取る「ウィンドウ」を見ているのか、それらすべてが「\」でその本来性を無効とされ、ディスプレイのなかに今まで結びつくことのなかったつながりを生み出しながら「\風景」を形作る。

新津保はダブルクリックや⌘A+⌘Oなどの行為の結果として生じる「\風景」に対して、「スクリーンショット」という行為=⌘Shift3を行い、それを「風景」として改めて仕立てあげる。スクリーンショットで撮影された画像の集積は、そこに写っている画像の機能が無効化されている。アイコンをクリックしても何も起こらない。スクリーンショットはアイコンを機能から引き剥がし、画像と結びついたクリックなどの行為を無効化し、そこに「風景」を出現させる。

一度無効化したものをさらに無効化する「スクリーンショット」という行為は、「第二の自然環境」と認識されているネットやコンピュータから「第二の」という部分が示す機能と行為を無効化してしまう。だから、スクリーンショットを写真として提示することによって、「現実/仮想」のあいだの区別が「\」される。それゆえに「\風景」は見る者に、現実でも仮想でもないような、また現実でも仮想でもあるような「フラフラした感覚」を与えるのである。

写真集「\風景」をめぐる

「\風景」のデザインは、現実とウェブとを交差させるデザインを行うセミトランスペアレント・デザインの田中良治が行なっている。田中はウェブでは「時間軸」を持ったデザインを取り入れることが必要だと述べ、「劣化」という現象を取り入れたデジタル表現を多く行なっている⁴。ネットとリアルとの境界に意識を向けウェブデザインに携わっている田中が「\風景」のデザインを行なっていることは、この写真集を成立させるうえで重要な役割を担っていると考えられる。

田中が強く意識する「時間軸」は、写真集というモノにおいては「ページをめくる」という行為とともにある。ページをめくるという時間は写真集にとっては当たり前のものであるが、だからこそ、そこに存在する「時間軸」の意味を写真集で展開されている写真とともに考える必要があるのではないだろうか。ページをめくるごとにスクリーンショットで撮影された「デスクトップ」がたわむ。それは写真集というモノを構成する紙にプリントさ

れた写真が、ページをめくるごとになるからである。さらに『\風景』の判型がA4ヨコであることから、ページをめくる際に殊更に写真がゆがむ。普段は固いガラスに覆われたディスプレイに垂直に提示されているデスクトップが、柔らかい紙の上にプリントされ水平な状態で提示され、ページとしてめくられる。まさにその時、スクリーンショットで無効化されたディスプレイ上の行為の時間に、写真集というモノの時間が入り込む。ページをめくるという行為がひとつの「時間軸」を『\風景』に導入する。そして、横長の紙にプリントされたページめくりに度にデスクトップはそのかたちを変えつつ、ほんの僅かだが劣化していく。

現実の風景をコンピュータのディスプレイという仮想に置いて見る。現実の風景を仮想に置いて、それをスクリーンショットにおさめプリントし、写真集というかたちでページをめくりながら眺める。写真集に収められたモノとしてのデスクトップは歪み劣化していくが、ディスプレイ上の「仮想の風景＝\風景」としてのデスクトップは常に一定の状態を表示され続ける。さらに、スクリーンショットではない現実の風景写真もそこにある。こうした現実と仮想とのズレを含みながら、ページをめくるという時間の流れは、現実と写真／スクリーンショットと仮想とを直に結んでいく。この直結回路は、写真集を構成する写真／スクリーンショットが、写真集『\風景』のページをめくる人の意識のなかにイメージを「モノ」のように操作できる「仮想の風景＝\風景」を立ち上げていくなかで形成される。この回路によって、ページをめくって眺めているのは写真集『\風景』でありながら、意識はディスプレイを見つめている状態に飛ばされるという「フラフラした感覚」が発生する。そして、この感覚が写真集を眺める者の意識の「フレーム」を現実だけに留めずに、仮想にまで拡げるのである。

ディスプレイ上の時間と行為を無効化するスクリーンショットは写真の「フレーム」を拡げつつ、「時間軸」を強く意識してデザインされた写真集におさまることで、写真／スクリーンショットというイメージのレベルだけでなく、ページをめくるというモノのレベルにおいても「現実と仮想」のあいだの区別を無効化して、写真集を眺める者の意識の「フレーム」を拡げる。そして、

「フレーム」が拡がった分だけ、そこに「フラフラできる領域」が生まれ、居場所がはっきりしない「フラフラした感覚」が生じるのである。現実と仮想のフレームが重なりつつある現在において、新津保建秀の写真／スクリーンショットを田中良治がデザインした写真集『\風景』が示す「フラフラした感覚」は重要な役割を担っていくと考えられる。

参考文献・URL

- 1
新津保建秀『\風景』角川書店、2012年。
- 2
池上高志「\風景＝風景」、『美術手帖2012年8月号：特集「写真2.0」』、美術出版社、2012年。
- 3
新津保建秀、インタビュアー：島貫泰介「あたらしい「風景」をとらえるために」『アサヒカメラ 2012年5月号』、朝日新聞出版、2012年。
- 4
セミトランスペアレント・デザイン「時間軸－ウェブとリアル境界」、<http://www.yomiuri.co.jp/stream/onstream/semitransparent.htm> (2012.10.03アクセス)。